

## 7. 精神疾患病態研究部

### I. 研究部の概要

精神疾患病態研究部では、精神疾患の克服とその障害の支援のための先駆的研究活動を展開している。精神疾患の生物学的な研究と精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動をより発展させて全国レベルで展開することを目標としている。精神疾患の生物学的な研究は、認知社会機能、脳神経画像、神経生理機能などの中間表現型及びゲノムなどの生体試料を用いて、統合失調症、気分障害、発達障害などの幅広い精神疾患について疾患横断的に検討することにより、病態を解明し、新たな診断法・治療法の開発を行っている。この研究は、当研究部においてのみ行うものではなく、国立精神・神経医療研究センターの他の研究部門および日本全国42の精神疾患関連研究機関の共同研究体制であるCOCORO（Cognitive Genetics Collaborative Research Organization：認知ゲノム共同研究機構）を運営しオールジャパン体制で遂行している。精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動は、EGUIDEプロジェクト（Effectiveness of GUIDeline for Dissemination and Education in psychiatric treatment：精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究）という全国45大学を含む282医療機関の共同研究組織を牽引し、全国でガイドラインの講習を行い、その効果検証を行っている。

令和4年度の人員構成は次のとおりである。部長：橋本亮太，室長：三浦健一郎，松本純弥，リサーチフェロー：長谷川尚美，科研費心理療法士：田村友里江，小池春菜，新谷茉莉果，瀧浪貴夢，ガーネヴィカス，科研費研究補助員：木村哲也，北川航，山縣眞美子，伊藤颯姫，宮山未来乃，河上優稀，併任研究員：久保田智香，佐藤英樹，宮川希，柏木宏子，竹田康二，高野晴成，石川夏絵，林大祐，一戸紀孝，渡邊恵，樋口早子，五十嵐俊，西村晃萌，外来研究員15名，客員研究員58名，研究生16名。

### II. 研究活動

#### A. 精神疾患の病態解明と診断法・治療法の開発研究

##### 1) 精神疾患の脳神経画像研究（松本，三浦，橋本，高野，伊藤，宮山，宮川）

精神疾患の脳神経画像研究は、COCOROの主なメンバーである大阪大学（藤本，山森，安田客員研究員），生理学研究所（福永客員研究員），筑波大学（根本客員研究員），東京大学（岡田客員研究員），北海道大学（橋本直樹客員研究員），山口大学（中川客員研究員），京都大学（宮田客員研究員），富山大学（高橋客員研究員），名古屋大学（尾崎客員研究員），岐阜大学（大井客員研究員），九州大学（鬼塚客員研究員），昭和大学（中村客員研究員），徳島大学（沼田客員研究員），産業医科大学（吉村客員研究員），奈良医科大学（牧之段客員研究員），慈恵医科大学（小高客員研究員），広島大学，日本医科大学などの多施設共同研究にて行っている。統合失調症を中心に三次元脳構造画像解析，拡散テンソル画像解析，安静時機能的MRI解析などを行っている。また，脳病態統合イメージングセンター（IBIC）臨床脳画像研究部の高野部長と共に，Integrative Brain Imaging Support System（IBISS：アイビス）による脳MRI画像データの品質評価及び管理システムの構築を行っている。国際的な脳神経画像の巨大コンソーシアムであるENIGMAとの共同研究も引き続き行っている。統合失調症において健常者より体積が大きいことが知られている淡蒼球体積が統合失調症患者の陽性症状と正の相関があることを報告した（橋本，三浦，宮山，松本，Ito et al, *Psychiatry Clin Neurosci*, 2022）。これらの研究により，BPCNP/PPP4学会合同年会優秀演題発表賞を松本室長が受賞し，今年度は3編の論文成果があった。

## 2) 精神疾患の眼球運動研究 (三浦, 松本, 橋本)

精神疾患の眼球運動研究は、大阪大学 (藤本, 山森, 安田客員研究員), 名古屋大学 (尾崎客員研究員), 九州大学 (鬼塚客員研究員), 東京大学, 奈良医科大学 (牧之段客員研究員), 北海道大学 (橋本直樹, 吉田, 岡田客員研究員), 岐阜大学 (大井客員研究員), 徳島大学 (沼田客員研究員), 京都大学 (宮田客員研究員), 生理学研究所 (福永客員研究員) などとの多施設共同研究にて行っている。統合失調症を中心にフリービューイング課題, 滑動性追跡眼球運動課題, 注視課題などから得られた眼球運動の特徴, および眼球運動異常を示す眼球運動スコアの解析や, 眼球運動の基礎研究などを行った。統合失調症患者の視覚的注意に健常者と異なる性質が見られること, 霊長類モデルが統合失調症様の眼球運動異常を示すこと等の成果が得られた (橋本, Polyakova et al, *Front Neurosci*, 2022)。さらに, 日本医療研究開発機構 (AMED) 医工連携・人工知能実装研究事業 (研究課題: AI 技術を活用した統合失調症の早期診断医療機器プログラムの開発) の支援のもと, 眼球運動と認知機能を用いた統合失調症の診断マーカーの社会実装化を企業と, アカデミアの 9 医療機関の共同研究にて推進している。眼球運動と認知機能の組合せが統合失調症の良い診断マーカーなり得ること等の成果が得られた。また, 医療現場で実施可能なタブレット機器にて簡便に測定できる医療機器プログラム開発を進め, タブレット実装を行い, 実際に健常者や統合失調症患者で測定を行った。今後, 取得したデータをもとに検査機器としての完成度を高め, 特定臨床研究に進めていく予定である。

## 3) 認知社会機能プロジェクト (橋本, 松本, 三浦, 伊藤)

広く診療で使えるような統合失調症の認知機能障害の簡便な測定法を開発し, 2000 例程度のデータを COCORO にて集積して解析し, 普及のため各地で講習会などを行っている。認知機能障害は, 簡略版 WAIS で測定する推定知能と Japanese Adult Reading Test (JART) で測定する推定病前知能の差にて算出したものである。2023 年 3 月の第 17 回日本統合失調症学会で, 統合失調症の認知社会機能障害の簡易な測定法のワークショップを児童・予防精神医学研究部の住吉部長と共にを行った。統合失調症だけでなく, 双極性障害, 大うつ病性障害, 自閉スペクトラム症をまとめて, 認知機能障害と週当たりの就労時間を用いてデータ駆動型に分類すると, 4 つのクラスターに分類され, すべての診断がクラスター間で不均一に分布していることが示された。この結果は, 精神障害者の機能回復を支援するための診断特異的な戦略の重要性を示唆している (橋本, 松本, 三浦, Sumiyoshi et al, *BJPsych Open*, 2022)。

## 4) 精神疾患のゲノム・生体試料研究 (橋本, 松本, 三浦)

精神疾患のゲノム・生体試料研究は, 国内においては大阪大学 (藤本, 山森, 安田, 橋本 均客員研究員), 名古屋大学 (尾崎客員研究員), 東京農業大学 (中澤客員研究員), 東京大学 (菊地客員研究員), 徳島大学 (沼田客員研究員), 岐阜大学 (大井客員研究員), 奈良医科大学 (牧之段客員研究員), 東京都医学研究所 (新井客員研究員), 福島県立医科大学などとの共同研究, そして国外においては双極性障害におけるリチウムの治療反応性の遺伝学研究的コンソーシアムである ConLiGen や ENIGMA との共同研究を中心に行っている。今年度は名古屋大学の精神疾患のコピー数多型 (copy number variation: CNV) の遺伝学研究的の 3 編を含むゲノム研究が 5 編の研究成果が得られた。

## 5) 精神疾患の分子メカニズム研究 (橋本, 松本)

東京農業大学 (中澤客員研究員) と東京大学 (菊地客員研究員) との共同研究にて, 引き続き日本医療研究開発機構 (AMED) 脳とこころの研究推進プログラム精神・神経疾患メカニズム解明プロジェクト (研究課題: iPS 細胞技術とデータ科学を融合した精神疾患横断的な双方向トランスレショナル研究) を行っている。統合失調症に認められる 3q29 欠失や自閉スペクトラム症で認められる POGZ 変異の iPS 細胞における機能解析を行い, 徐々に成果が得ら

れている。神経研究所微細構造研究部（一戸部長：併任）と自閉スペクトラム症に関する共同研究を引き続き行っている。

6) 司法精神医学領域の生物学的研究（柏木，竹田，三浦，松本，橋本）

暴力の既往のある統合失調症群，暴力の既往のない統合失調症群，健常者データ 1600 例以上を COCORO データベースから抽出し，脳画像や眼球運動との関連を検討している。

B. 精神科医療の普及・均てん化に関する研究

1) 精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動：EGUIDE プロジェクト（長谷川，久保田，佐藤，柏木，三浦，松本，橋本）

EGUIDE プロジェクトは，精神科医に対してガイドラインの教育の講習を行い，ガイドラインの効果を検証する社会実証研究である。EGUIDE プロジェクトの主なメンバーである杏林大学（渡邊客員研究員），北里大学（稲田客員研究員），獨協医科大学（古郡客員研究員），兵庫医科大学（山田客員研究員），福岡大学（堀客員研究員）など，24 名の客員研究員と共に共同研究を実施している。対象とするガイドラインは，統合失調症薬物治療ガイドラインとうつ病治療ガイドラインであり，日本神経精神薬理学会，日本うつ病学会，日本臨床精神神経薬理学会，日本精神神経学会のバックアップを受けて行っている。2016 年に開始した EGUIDE プロジェクトは，本年度 45 大学 282 医療機関が参加する巨大なプロジェクトになり，毎年 10 回以上の講習会を全国で行い，延べ 3500 名以上の精神科医が講習を受講した。EGUIDE プロジェクトにおける検証活動は，講習受講直後のガイドラインの理解度の向上，その後のガイドラインを遵守した治療行動調査における実践度の向上，処方行動を診療の質（Quality Indicator: QI）という形で測定し，例えば統合失調症患者の退院時の抗精神病薬単剤治療率というような QI を設定し，経時的に測定することにより，講習の効果の有無についての検討を行った。たった一日の講習を受けることにより統合失調症とうつ病の両方のガイドラインに対する理解度が顕著に向上することを昨年度論文報告し，そのガイドラインの実践度も顕著に向上し，それが 2 年間持続することを示した（長谷川，松本，三浦，橋本，Yamada et al, BJPpsych Open, 2022）。また，この講習を受講した受講者の満足度は非常に高いことも報告した（長谷川，松本，三浦，橋本，Ogasawara et al, Neuropsychopharmacol Rep, 2022）。更に，Corvid 感染症の影響で，対面講習からウェブ講習に切り替えたが，ウェブ講習においても対面講習と同様に理解度及び満足度が得られることを示した（長谷川，松本，三浦，橋本，Iida et al, Neuropsychopharmacol Rep, 2022）。

クロザピンは治療抵抗性統合失調症に唯一適応のある抗精神病薬であり，世界中のガイドラインでも治療抵抗性統合失調症＝クロザピン治療とされている。しかし，日本でのクロザピン治療率は諸外国の概ね 1/10 程度であり，普及が必要とされている。統合失調症の抗精神病薬単剤治療率は全国平均が約 57% であるが，クロザピンを処方されている治療抵抗性統合失調症では約 90% となっており，他の向精神薬の併用も少なく，治療抵抗性統合失調症の治療としてクロザピンを用いることがより適切な治療につながる可能性が示唆された（長谷川，松本，三浦，橋本，Ochi et al, Int J Neuropsychopharmacol, 2022）。抗精神病薬の錐体外路系副作用に用いられることがある抗コリン薬の退院時の処方率は全国で約 30% となっており諸外国より高いだけでなく，0～67% と病院によりばらつきが多かった（長谷川，松本，三浦，橋本，Hori et al, Front Psychiatry, section Psychopharmacology, 2022）。入院前に抗コリン薬を処方されていて退院時に中止していた患者において，退院時に抗精神病薬単剤治療率が高く，第二世代抗精神病薬の処方割合が高いことが見いだされた（長谷川，松本，三浦，橋本，Okada et al, J Clin Psychopharmacol, 2022）。

統合失調症とうつ病両方において，電気けいれん療法を受けた患者では退院時の抗不安薬・睡眠薬の使用率が低いことなどを見出した（長谷川，松本，三浦，橋本，Tsuboi et al, Psychiatry

Clin Neurosci, 2023). また、頓用薬はしばしば臨床場面で用いられているが、有用性のエビデンスに乏しく統合失調症においてもうつ病においてもガイドラインで推奨されていない。この屯用薬の実態を把握し、向精神薬の屯用処方が多いこととその向精神薬の併用の多さが相関することを見出した（長谷川，松本，三浦，橋本，Kyou et al, Ann Gen Psychiatry, 2022）。このことは、屯用処方から併用処方につながっていく可能性を示唆している。

うつ病治療ガイドラインでは重症度によって推奨する治療が異なるが、今までに重症度をどれぐらい判断しているかという実態調査はなかった。EGUIDE プロジェクトでは、全国の重症度の記載率が約 57%であり、病院ごとに 0~100%と大きくばらついており、均てん化が必要なことを示した（長谷川，松本，三浦，橋本，Muraoka et al, Asian Journal of psychiatry, 2022）。

上記のように日本の精神科診療実態調査では、全国の平均値や病院ごとの平均値を調べて、均てん化の必要性を見出した。一方で、一人一人の患者については、どれぐらいガイドラインに準拠した治療を行っているかを評価する方法はなく、ガイドラインの全ての臨床疑問を網羅して解釈をした上で、患者に説明して共同意思決定を行うこととなる。精神科医はもちろんガイドラインを踏まえた適切な解釈をできるように精進すべきであるが、患者がその全てを同じように理解することは困難である。そこで、患者がより理解しやすくなるように、処方がどれぐらいガイドラインに適合しているかという指標（Individual fitness score: IFS）を作成した（長谷川，松本，三浦，橋本，Inada et al, Neuropsychopharmacol Rep, 2022; 長谷川，松本，三浦，橋本，Fukumoto et al, Neuropsychopharmacol Rep, 2022）。この IFS は、最もガイドラインに適合している処方を 100 点とし、ガイドラインにて勧められていない治療を行うと減点を行い、最低点を 0 点とするようにしている。この際に最も重要なことは、統合失調症においてもうつ病においても、下位診断（統合失調症：治療抵抗性，うつ病：軽症/中等症・重症/精神病性）によって推奨される治療が異なるため、最もガイドラインに適合している治療が異なるということである。例えば統合失調症においては第二世代抗精神病薬単剤治療を行うと 100 点であり、抗精神病薬や向精神薬の併用を行うと一剤あたり 15~80 点を減点される。治療抵抗性統合失調症においては、クロザピン治療を行うと 100 点となり、クロザピン治療を行っていないならば 60 点の減点となる。このような IFS を用いた診療場面として、統合失調症患者が不眠を訴え睡眠薬の処方を希望した際に、IFS が 80 点から 65 点になることを説明し、ガイドラインでは不眠の場合にはその原因を精査することになっていることから、問診を行って、不眠の理由は幻聴の悪化とわかり、抗精神病薬の用量が不十分なので増量するという対応を行うというような流れとなる。患者にとっては、点数にて自身の処方と標準的な治療との違いが理解しやすく、標準的な治療を行うことについて説明することによって、治療に対する理解を深めやすくなると考えられる画期的な研究成果である。

このように、ガイドラインの普及活動を全国で行い、論文成果は 11 編であった。

## 2) 精神科治療ガイドラインの作成・改訂（橋本）

統合失調症薬物治療ガイドラインを当事者・家族・支援者など関連団体すべてを網羅した 80 名以上の委員と共同で改訂を行い 2022 年度 5 月に公開した。精神科領域では初めての試みであり、他の診療領域においても先進的な取り組みである。日本神経精神薬理学会と日本臨床精神神経薬理学会からプレスリリースを行い、医学系情報メディアを中心に注目を集め広くインターネット等で取り上げられた。

## III. 社会的活動に関する評価

### (1) 市民社会に対する一般的な貢献

- ・ 専門家向けの統合失調症薬物治療ガイドライン 2022 の当事者・支援者用の統合失調症薬物治療ガイド 2022 を作成し 2023 年 2 月に公開した。

**(2) 専門教育面における貢献**

- ・ 統合失調症やうつ病などのガイドラインの作成を行い、精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動である EGUIDE プロジェクトも全国展開している。EGUIDE プロジェクトにおいては、統合失調症薬物治療ガイドラインとうつ病治療ガイドラインの講習を全国の精神科医を対象に行い、その医療機関における治療に影響を与えるかどうかについての検討を行い、精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果を検証している。令和4年度は、統合失調症薬物治療ガイドラインとうつ病治療ガイドラインの講習を全国14か所で行い、45以上の医療機関、延べ538名の精神科医が参加した（長谷川、久保田、佐藤、柏木、橋本）。
- ・ 開発した統合失調症の認知機能障害の簡便な測定法についての講習会を統合失調症学会において行い、評価シートを配布し普及活動を行った（松本、伊藤、橋本）。
- ・ 国立大学法人 大阪大学の医学系研究科、連合小児発達学研究科においては招へい教授として、奈良県立医科大学においては非常勤講師として、精神医学研究の指導や知見の教授を行っている（橋本）。

**(3) 精研の研修の主催と協力**

- ・ 2022年度国立精神・神経医療研究センター精神保健に関する技術研修で第1回目のうつ病の標準治療研修、統合失調症の標準治療研修を行った（柏木、長谷川、橋本）。

**(4) 保健医療行政政策に関連する研究・調査、委員会等への貢献****(5) センター内における臨床的活動**

- ・ 外来診療において、連携新患、統合失調症外来をそれぞれ週に1回の新患枠の診察及び、再診を週に半日行っている。専門として、統合失調症及び発達障害の診療を行い、病院内外からの紹介を受け、セカンドオピニオン対応も行っている（橋本）。

**(6) その他****IV. 研究業績****A. 刊行物****(1) 原著論文**

- 1) Cearns M, Amare AT, Schubert KO, Thalamuthu A, Frank J, Streit F, Adli M, Akula N, Akiyama K, Ardaur R, Arias B, Aubry JM, Backlund L, Bhattacharjee AK, Bellivier F, Benabarre A, Bengesser S, Biernacka JM, Birner A, Brichant-Petitjean C, Cervantes P, Chen HC, Chillotti C, Cichon S, Cruceanu C, Czerski PM, Dalkner N, Dayer A, Degenhardt F, Zompo MD, DePaulo JR, Etain B, Falkai P, Forstner AJ, Frisen L, Frye MA, Fullerton JM, Gard S, Garnham JS, Goes FS, Grigoriou-Serbanescu M, Grof P, Hashimoto R, (117名中43番目) Hauser J, Heilbronner U, Herms S, Hoffmann P, Hofmann A, Hou L, Hsu YH, Jamain S, Jimenez E, Kahn JP, Kassem L, Kuo PH, Kato T, Kelsoe J, Kittel-Schneider S, Kliwicki S, König B, Kusumi I, Laje G, Landén M, Lavebratt C, Leboyer M, Leckband SG, Maj M; Major Depressive Disorder Working Group of the Psychiatric Genomics Consortium, Manchia M, Martinsson L, McCarthy MJ, McElroy S, Colom F, Mitjans M, Mondimore FM, Monteleone P, Nievergelt CM, Nöthen MM, Novák T, O'Donovan C, Ozaki N, Millischer V, Papiol S, Pfennig A, Pisanu C, Potash JB, Reif A, Reininghaus E, Rouleau GA, Rybakowski JK, Schalling M, Schofield PR, Schweizer BW, Severino G, Shekhtman T, Shilling PD, Shimoda K, Simhandl C, Slaney CM, Squassina A, Stamm T, Stopkova P, Tekola-Ayele F,

- Tortorella A, Turecki G, Veeh J, Vieta E, Witt SH, Roberts G, Zandi PP, Alda M, Bauer M, McMahon FJ, Mitchell PB, Schulze TG, Rietschel M, Clark SR, Baune BT: Using polygenic scores and clinical data for bipolar disorder patient stratification and lithium response prediction: machine learning approach. *Br J Psychiatry* 220:219-228, 2022.
- 2) Yamada H, Motoyama M, Hasegawa N, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Yasui-Furukori N, Numata S, Takeshima M, Sugiyama N, Nagasawa T, Kubota C, Atake K, Tsuboi T, Ichihashi K, Hashimoto N, Inagaki T, Takaesu Y, Iga JI, Hori H, Onitsuka T, Komatsu H, Hishimoto A, Fukumoto K, Fujimoto M, Nakamura T, Nemoto K, Furihata R, Yamamura S, Yamagata H, Ogasawara K, Katsumoto E, Murata A, Iida H, Ochi S, Makinodan M, Kido M, Kishimoto T, Yasuda Y, Usami M, Suwa T, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R: A dissemination and education programme to improve the clinical behaviours of psychiatrists in accordance with treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorders: the Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE) project. *BJPsych Open* 8(3):e83, 2022.
  - 3) Kubota R, Okubo R, Ikezawa S, Matsui M, Adachi L, Wada A, Fujimaki C, Yamada Y, Saeki K, Sumiyoshi C, Kikuchi A, Omachi Y, Takeda K, Hashimoto R, Sumiyoshi T, Yoshimura N: Sex differences in social cognition and association of social cognition and neurocognition in early course schizophrenia. *Front Psychiatry, section Psychopathology* 13:867468, 2022.
  - 4) Hori H, Yasui-Furukori N, Hasegawa N, Iga JI, Ochi S, Ichihashi K, Furihata R, Kyo Y, Takaesu Y, Tsuboi T, Kodaka F, Onitsuka T, Okada T, Murata A, Kashiwagi H, Iida H, Hashimoto N, Ohi K, Yamada H, Ogasawara K, Yasuda Y, Muraoka H, Usami M, Numata S, Takeshima M, Yamagata H, Nagasawa T, Tagata H, Makinodan M, Kido M, Katsumoto E, Komatsu H, Matsumoto J, Kubota C, Miura K, Hishimoto A, Watanabe K, Inada K, Kawasaki H, Hashimoto R: Prescription of anticholinergic drugs in patients with schizophrenia: analysis of antipsychotic prescription patterns and hospital characteristics. *Front Psychiatry, section Psychopharmacology* 13:823826, 2022.
  - 5) Takahashi T, Tsugawa S, Nakajima S, Plitman E, Chakravarty MM, Masuda F, Wada M, Kurose S, Ochi R, Matsushita K, Sasabayashi D, Nakamura M, Nishikawa Y, Takayanagi Y, Nishiyama S, Higuchi Y, Mizukami Y, Furuichi A, Kido M, Hashimoto R, Noguchi K, Fujii S, Mimura M, Noda Y, Suzuki M: Thalamic and striato-pallidal volumes in schizophrenia patients and individuals at risk for psychosis: A multi-atlas segmentation study. *Schizophr Res* 243:268-275, 2022.
  - 6) Sumiyoshi C, Ohi K, Fujino H, Yamamori H, Fujimoto M, Yasuda Y, Uno Y, Takahashi J, Morita K, Katsuki A, Yamamoto M, Okahisa Y, Sata A, Katsumoto E, Koeda M, Hirano Y, Nakataki M, Matsumoto J, Miura K, Hashimoto N, Makinodan M, Takahashi T, Nemoto K, Kishimoto T, Suzuki M, Sumiyoshi T, Hashimoto R: Transdiagnostic comparisons of intellectual abilities and work outcome in patients with mental disorders: multicentre study. *BJ Psych Open* 8(4):e98, 2022.
  - 7) Ogasawara K, Numata S, Hasegawa N, Nakataki M, Makinodan M, Ohi K, Takeshima M, Tsuboi T, Hashimoto N, Onitsuka T, Muraoka H, Hori H, Ichihashi K, Inagaki T, Yasui-Furukori N, Hishimoto A, Sugiyama N, Fukumoto K, Nagasawa T, Matsumoto J, Takaesu Y, Furihata R, Nemoto K, Nakamura T, Usami M, Miura K, Fujimoto M, Tagata H, Yamada H, Komatsu H, Ochi S, Atake K, Katsumoto E, Kido M, Kishimoto T, Suwa T, Yamamura S, Iga JI, Iida H, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R: Subjective assessment of participants in education programs on clinical practice guidelines in the field of psychiatry. *Neuropsychopharmacol Rep* 42(2):221-225, 2022.

- 8) Demizu Y, Matsumoto J, Yasuda Y, Ito S, Miura K, Yamamori H, Fujimoto M, Hasegawa N, Ishimaru K, Hashimoto R: Relationship between autistic traits and social functioning in healthy individuals. *Neuropsychopharmacol Rep* 42(2):226-229, 2022.
- 9) Nawa Y, Kushima I, Aleksic B, Yamamoto M, Kimura H, Banno M, Hashimoto R, Ozaki N: Treatment-resistant schizophrenia in patients with 3q29 deletion: A case series of four patients. *Psychiatry Clin Neurosci* 76(7):338-339, 2022.
- 10) Muraoka H, Kodaka F, Hasegawa N, Yasui-Furukori N, Fukumoto K, Kashiwagi H, Tagata H, Hori H, Atake K, Iida H, Ichihashi K, Furihata R, Tsuboi T, Takeshima M, Komatsu H, Kubota C, Ochi S, Takaesu Y, Usami M, Nagasawa T, Makinodan M, Nakamura T, Kido M, Ueda I, Yamagata H, Onitsuka T, Asami T, Hishimoto A, Ogasawara K, Katsumoto E, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Nishimura K, Hashimoto R: Characteristics of the treatments for each severity of major depressive disorder: A real-world multi-site study. *Asian Journal of psychiatry* 74:103174, 2022.
- 11) Kushima I, Nakatochi M, Aleksic B, Okada T, Kimura H, Kato H, Morikawa M, Inada T, Ishizuka K, Torii Y, Nakamura Y, Tanaka S, Imaeda M, Takahashi N, Yamamoto M, Iwamoto K, Nawa Y, Ogawa N, Iritani S, Hayashi Y, Lo T, Otogonbayar G, Furuta S, Iwata N, Ikeda M, Siato T, Ninomiya K, Okochi T, Hashimoto R, Yamamori H, Yasuda Y, Fujimoto M, Miura K, Itokawa M, Arai M, Miyashita M, Toriumi K, Ohi K, Shioiri T, Kitaichi K, Someya T, Watanabe Y, Egawa J, Takahashi T, Suzuki M, Sasaki T, Tochigi M, Nishimura F, Yamasue H, Kuwabara H, Wakuda T, Kato T, Kanba S, Horikawa H, Usami M, Kodaira M, Watanabe K, Yoshikawa T, Toyota T, Yokoyama S, Munesue T, Kimura R, Funabiki Y, Kosaka H, Jung M, Kasai K, Ikegame T, Jinde S, Numata S, Kinoshita M, Kato T, Kakiuchi C, Yamakawa K, Suzuki T, Hashimoto N, Ishikawa S, Yamagata B, Nio S, Murai T, Son S, Kunii Y, Yabe H, Inagaki M, Goto Y, Okumura Y, Ito T, Arioka Y, Mori D, Ozaki N: Cross-disorder analysis of genic and regulatory copy number variations in bipolar disorder, schizophrenia, and autism spectrum disorder. *Biological Psychiatry* 92(5):362-374, 2022.
- 12) Polyakova Z, Iwase M, Hashimoto R, Yoshida M: The effect of ketamine on eye movement characteristics during free-viewing of natural images in common marmosets. *Front Neurosci, section Perception Science* 16:1012300, 2022.
- 13) Ochi S, Tagata H, Hasegawa N, Yasui-Furukori N, Iga JI, Kashiwagi H, Kodaka F, Komatsu H, Tsuboi T, Tokutani A, Numata S, Ichihashi K, Onitsuka T, Muraoka H, Iida H, Ohi K, Atake K, Kishimoto T, Hori H, Takaesu Y, Takeshima M, Usami M, Makinodan M, Hashimoto N, Fujimoto M, Furihata R, Nagasawa T, Yamada H, Matsumoto J, Miura K, Kido M, Hishimoto A, Ueno SI, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R: Clozapine Treatment Is Associated With Higher Prescription Rate of Antipsychotic Monotherapy and Lower Prescription Rate of Other Concomitant Psychotropics: A Real-World Nationwide Study. *Int J Neuropsychopharmacol* 25(10):818-826, 2022.
- 14) Ito S, Miura K, Miyayama M, Matsumoto J, Fukunaga M, Ishimaru K, Fujimoto M, Yasuda Y, Watanabe Y, Hashimoto R: Association between globus pallidus volume and positive symptoms in schizophrenia. *Psychiatry Clin Neurosci* 76(11):602-603 2022.
- 15) Okada T, Hori H, Hasegawa N, Murata A, Kyou Y, Kodaka F, Iida H, Ochi S, Takaesu Y, Tsuboi T, Iga JI, Ichihashi K, Muraoka H, Furihata R, Yasui-Furukori N, Usami M, Onitsuka T, Ogasawara K, Tagata H, Takeshima M, Ohi K, Numata S, Hashimoto N, Yamada H, Makinodan M, Komatsu H, Hishimoto A, Yamagata H, Kido M, Kubota C, Atake K, Yamada H, Nagasawa T, Matsumoto J, Miura K, Inada K, Watanabe K, Suda S, Hashimoto R: Second-Generation Antipsychotic Monotherapy Contributes to the

- Discontinuation of Anticholinergic Drugs in Hospitalized Patients With Schizophrenia. *J Clin Psychopharmacol* 42(6):591-593 2022.
- 16) Kushima I, Aleksic B, Kimura H, Nakatochi M, Lo T, Ikeda M, Arai M, Hashimoto R, Numata S, Okamura Y, Obara T, Inada T, Ozaki N: X chromosome aneuploidies and schizophrenia: association analysis and phenotypic characterization. *Psychiatry Clin Neurosci* 76(12):667-673, 2022.
  - 17) Kalman JL, Yoshida T, Andlauer TFM, Schulte EC, Adorjan K, Alda M, Ardaou R, Aubry JM, Brosch K, Budde M, Chillotti C, Czernski PM, DePaulo RJ, Forstner A, Goes FS, Grigoriou-Serbanescu M, Grof P, Grotegerd D, Hahn T, Heilbronner M, Hasler R, Heilbronner U, Heilmann-Heimbach S, Kapelski P, Kato T, Kohshour MO, Meinert S, Meller T, Nenadić I, Nothen MM, Novak T, Opel N, Pawlak J, Pfarr JK, Potash JB, Reich-Erkelenz D, Repple J, Richard-Lepouriel H, Rietschel M, Ringwald KG, Rouleau G, Schaupp S, Senner F, Severino G, Squassina A, Stein F, Stopkova P, Streit F, Thiel K, Thomas-Odenthal F, Turecki G, Twarowska-Hauser J, Winter A, Zandi PP, Kelsoe JR, Consortium on Lithium Genetics (ConLiGen), PsyCourse, Falkai P, Dannlowski U, Kircher T, Schulze TG, Papiol S: Investigating the phenotypic and genetic associations between personality traits and suicidal behavior across major mental health diagnoses. *Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci* 272(8):1611-1620, 2022.
  - 18) Inada K, Fukumoto K, Hasegawa N, Yasuda Y, Yamada H, Hori H, Ichihashi K, Iida H, Ohi K, Muraoka H, Kodaka F, Ide K, Hashimoto N, Iga JI, Ogasawara K, Atake K, Takaesu Y, Nagasawa T, Komatsu H, Okada T, Furihata R, Kido M, Kikuchi S, Kubota C, Makinodan M, Ochi S, Takeshima M, Yamagata H, Matsumoto J, Miura K, Usami M, Kishimoto T, Onitsuka T, Katsumoto E, Hishimoto A, Numata S, Yasui-Furukori N, Watanabe K, Hashimoto R: Development of individual fitness score for conformity of prescriptions to the "Guidelines For Pharmacological Therapy of Schizophrenia". *Neuropsychopharmacol Rep* 42(4):502-509, 2022.
  - 19) Kyou Y, Yasui-Furukori N, Hasegawa N, Ide K, Ichihashi K, Hashimoto N, Hori H, Shimizu Y, Imamura Y, Muraoka H, Iida H, Ohi K, Yasuda Y, Ogasawara K, Numata S, Iga JI, Tsuboi T, Ochi S, Kodaka F, Furihata R, Onitsuka T, Makinodan M, Komatsu H, Takeshima M, Kubota C, Hishimoto A, Atake K, Yamagata H, Kido M, Nagasawa T, Usami M, Kishimoto T, Kikuchi S, Matsumoto J, Miura K, Yamada H, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R: The characteristics of discharge prescriptions including pro re nata psychotropic medications for patients with schizophrenia and major depressive disorder from the survey of the "Effectiveness of guidelines for dissemination and education in psychiatric treatment (EGUIDE)" project. *Ann Gen Psychiatry* 21(1):52, 2022.
  - 20) Tsuboi T, Takaesu Y, Hasegawa N, Ochi S, Fukumoto K, Ohi K, Muraoka H, Okada T, Kodaka F, Igarashi S, Iida H, Kashiwagi H, Hori H, Ichihashi K, Ogasawara K, Hashimoto N, Iga JI, Nakamura T, Usami M, Nagasawa T, Kido M, Komatsu H, Yamagata H, Atake K, Furihata R, Kikuchi S, Horai T, Takeshima M, Hirano Y, Makinodan M, Matsumoto J, Miura K, Hishimoto A, Numata S, Yamada H, Yasui-Furukori N, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R: Effects of electroconvulsive therapy on the use of anxiolytics and sleep medications: a propensity score-matched analysis. *Psychiatry Clin Neurosci* 77(1):30-37, 2023.
  - 21) Yamagata H, Tsunedomi R, Kamishikiryo T, Kobayashi A, Seki T, Kobayashi M, Hagiwara K, Yamada N, Chen C, Uchida S, Ogihara H, Hamamoto Y, Okada G, Fuchikami M, Iga JI, Numata S, Kinoshita M, Kato TA, Hashimoto R, Nagano H, Ueno S, Okamoto Y, Ohmori T,



- Nakagawa S. Interferon signaling and hypercytokinemia-related gene expression in the blood of antidepressant non-responders. *Heliyon* 9(1):e13059, 2023.
- 22) Fukumoto K, Kodaka F, Hasegawa N, Muraoka H, Hori H, Ichihashi K, Yasuda Y, Iida H, Ohi K, Ochi S, Ide K, Hashimoto N, Usami M, Nakamura T, Komatsu H, Okada T, Nagasawa T, Furihata R, Atake K, Kido M, Kikuchi S, Yamagata H, Kishimoto T, Makinodan M, Horai T, Takeshima M, Kubota C, Asami T, Katsumoto E, Hishimoto A, Onitsuka T, Matsumoto J, Miura K, Yamada H, Yasui-Furukori N, Watanabe K, Inada K, Otsuka K, Hashimoto R: Development of an individual fitness score (IFS) based on the depression treatment guidelines of in the Japanese Society of Mood Disorders. *Neuropsychopharmacol Rep* 43(1):33-39, 2023.
- 23) Iida H, Okada T, Nemoto K, Hasegawa N, Numata S, Ogasawara K, Miura K, Matsumoto J, Hori H, Iga JI, Ichihashi K, Hashimoto N, Yamada H, Ohi K, Yasui-Furukori N, Fukumoto K, Tsuboi T, Usami M, Furihata R, Takaesu Y, Hishimoto A, Muraoka H, Katsumoto E, Nagasawa T, Ochi S, Komatsu H, Kikuchi S, Takeshima M, Onitsuka T, Tamai S, Kubota C, Inada K, Watanabe K, Kawasaki H, Hashimoto R: Satisfaction with web-based courses on clinical practice guidelines for psychiatrists: Findings from the "Effectiveness of Guidelines for Dissemination and Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE)" project. *Neuropsychopharmacol Rep* 43(1):23-32, 2023.
- 24) Korai Y, Miura K: A dynamical model of visual motion processing for arbitrary stimuli including type II plaids. *Neural Netw* 162:46-68, 2023.
- 25) Ohnishi T, Toda W, Itagaki S, Sato A, Matsumoto J, Ito H, Ishii S, Miura I, Yabe H: Disrupted structural connectivity and less efficient network system in patients with the treatment naïve adult attention-deficit/hyperactivity disorder. *Frontiers in Psychiatry, section ADHD* 14:1093522 2023.
- 26) 田中陽子, 宮田聖子, 岩本邦弘, 山本真江里, 三浦健一郎, 橋本亮太, 尾崎紀夫: ドライビングシミュレーターによる健常者の運転技術と視線特性との関係性. *日本安全運転医療学会誌 (電子版)* 2(1):46-53, 2022.

## (2) 総説

- 1) Hashimoto R: Is it possible to reconstruct the diagnostic system for psychiatric disorders based on neuroimaging findings? *Psychiatry Clin Neurosci* 76(5):139, 2022.
- 2) Onitsuka T, Hirano Y, Nakazawa T, Ichihashi K, Miura K, Inada K, Mitoma R, Yasui-Furukori N, Hashimoto R: Toward recovery in schizophrenia: Current concepts, findings, and future research directions. *Psychiatry Clin Neurosci* 76(7):282-291, 2022.
- 3) Yasuda Y, Matsumoto J, Miura K, Hasegawa N, Hashimoto R: Genetics of autism spectrum disorders and future direction. *J Hum Genet* 68(3):193-197, 2023.
- 4) 橋本亮太: 精神科領域における多施設共同研究の実際と研究倫理. *精神神経学雑誌* 124 (7): 472-478, 2022.
- 5) 橋本亮太: 更年期女性のうつ病の診断のポイントと治療のコツ. *日本女性医学学会雑誌* 29(4):628-630, 2022.
- 6) 橋本亮太, 市橋香代: 家族・当事者も一緒につくった統合失調症薬物治療ガイドライン 2022. *月刊みんなねっと* 185:6-9, 2022.
- 7) 橋本亮太, 松本純弥, 長谷川尚美, 三浦健一郎: 統合失調症のバイオタイプ研究. *日本生物学的精神医学会誌* 33(4):194-200, 2022.
- 8) 橋本亮太: ビッグデータ解析から精神疾患に迫る. ブルーバックス「心の病」の脳科学 なせ生じるのか, どうすれば治る 2224:53-56, 2023.

- 9) 三浦健一郎, 松本純弥, 根本清貴, 橋本亮太: 統合失調症の中間表現型を用いた診断と個別化医療. 臨床精神薬理 26(3):271-277, 2023.
- 10) 小池進介, 笠井清登, 柳下 祥, 國井尚人, 松崎政紀, 田中謙二, 宇賀貴紀, 吉田正俊, 山本真江里, 鬼塚俊明, 三浦健一郎, 小松三佐子: 双方向トランスレーショナルアプローチによる精神疾患の脳予測性障害機序に関する研究開発. 生体の科学 73(5):458-459, 2022.
- 11) 三浦健一郎: 視覚情報が自己移動感覚に及ぼす影響. 体育の科学 72 (11), 708-772, 2022.

(3) 著書

- 1) 鬼塚俊明, 橋本亮太: 編著 精神医学領域の論文をよみこなすキーワード100!. 新興医学出版社, 東京, pp1-280, 2022.
- 2) 稲場直子, 三浦健一郎: 眼球運動の種類. 日本視覚学会編集: 図説 視覚の事典. 朝倉書店, pp180-183, 2022.

(4) 研究報告書

- 1) 橋本亮太, 三浦健一郎, 松本純弥, 長谷川尚美: 多次元脳神経画像とゲノムによる精神疾患の脳病態に基づく新たな診断体系の構築. 2022 年度科学研究費助成事業基盤研究 (B) 研究実績報告書. 2023.
- 2) 橋本亮太: 発達障害のリスク遺伝子の同定. 2022 年度科学研究費助成事業特別推進研究「発達障害に関わる神経生物学的機構の霊長類的基盤の解明 (代表: 高田昌彦)」2022 年度研究実績報告書. 2023.
- 3) 橋本亮太: クロザピンモニタリングシステムの国際比較調査. 令和 4 年度厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)「治療抵抗性統合失調症薬の安全性の検証による望ましい普及と体制構築に向けた研究 (代表: 上野雄文)」分担研究報告書. 2023.
- 4) 橋本亮太, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華: 精神科領域のガイドラインの社会実装化に関する検証研究. 2022 年度日本医療研究開発機構 障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野) 2022 年度 委託研究開発成果報告書. 2023.
- 5) 橋本亮太, 三浦健一郎, 松本純弥, 安田由華: AI 技術を活用した統合失調症の早期診断医療機器プログラムの開発に関する研究. 2022 年度日本医療研究開発機構 医工連携・人工知能実装研究事業 2022 年度 委託研究開発成果報告書. 2023.
- 6) 橋本亮太, 三浦健一郎, 松本純弥: iPS 細胞技術とデータ科学を融合した精神疾患横断的な双方向トランスレーショナル研究. 2022 年度日本医療研究開発機構 脳とこころの研究推進プログラム (精神・神経疾患メカニズム解明プロジェクト) 2022 年度 委託研究開発成果報告書. 2023.
- 7) 橋本亮太: 気分障害と統合失調症の疾患連続性に関する脳画像等の総合的解析研究. 2022 年度日本医療研究開発機構 戦略的国際脳科学研究推進プログラム「縦断的 MRI データに基づく成人期気分障害と関連疾患の神経回路の解明 (研究開発代表者: 岡本泰昌)」2022 年度 委託研究開発成果報告書. 2023.
- 8) 橋本亮太: 脳神経画像の解析と縦断データに基づく, 精神疾患の治療効果及び予後に関する層別化. 2022 年度日本医療研究開発機構 障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野)「精神疾患レジストリの利活用による治療効果, 転帰予測, 新たな層別化に関する研究 (研究開発代表者: 中込和幸)」2022 年度 委託研究開発成果報告書. 2023.
- 9) 橋本亮太: COVID-19 精神症状のレジストリにおける脳画像収集システムの構築と解析. 2022 年度日本医療研究開発機構 障害者対策総合研究開発事業 (精神障害分野)「COVID-19 感染後の精神症状を有する患者レジストリの構築と病態解明及び新規治療法の開発に資する研究 (研究開発代表者: 鬼頭伸輔)」2022 年度 委託研究開発成果報告書. 2023.
- 10) 橋本亮太: 解析対象 ASD/SCZ 家系の選定と臨床情報の収集. 2022 年度日本医療研究開発機

構 ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム:B-Cure ゲノム医療実現推進プラットフォーム・先端ゲノム研究開発事業「精神疾患の個別化医療を実現するためのゲノム・空間オミクス多施設共同研究（研究開発代表者：徳永勝士）」2022年度 委託研究開発成果報告書. 2023.

- 11) 三浦健一郎：眼球運動の状況予測性解析法の研究開発と疾患横断的理解. 2022年度日本医療研究開発機構 革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト「双方向トランスレーショナルアプローチによる精神疾患の脳予測性障害機序に関する研究開発（研究開発代表者：小池進介）」2022年度 委託研究開発成果報告書. 2023.
- 12) 三浦健一郎, 松本純弥, 長谷川尚美：精神疾患の視覚認知行動異常のシステム神経科学的研究. 2022年度科学研究費助成事業 基盤研究（C）研究実施状況報告書. 2023.
- 13) 長谷川尚美：精神疾患の処方行動における治療ガイドラインの普及と教育の効果検証. 2022年度科学研究費助成事業 若手研究実施状況報告書. 2023.

## (5) 翻訳

## (6) その他

- 1) 橋本亮太（統合失調症薬物治療ガイドライン 2022 作成メンバー）：統合失調症薬物治療ガイドライン 2022(2022年5月20日公開). 医学書院, 2022.
- 2) 橋本亮太（統合失調症薬物治療ガイド 2022 ワーキンググループメンバー）：統合失調症薬物治療ガイド 2022-患者と支援者のために-(2023年2月15日公開). 2022.
- 3) 中込和幸, 橋本亮太：精神科専門医のための模擬テスト 6. 月刊精神科 40(4): 553-554, 2022.
- 4) 中込和幸, 橋本亮太：精神科専門医のための模擬テスト 6-回答と解説-. 月刊精神科 40(5): 728-732, 2022.
- 5) 橋本亮太：再構成座談会 新学術領域「マルチスケール精神病態の構成的理解」次世代脳・冬のシンポジウム 2021「基礎神経科学と臨床精神が融合したブレークスルー研究の育て方」. MULTISCAL BRAIN News letter 5:7-12, 2023.
- 6) 松本純弥：わたしの研究 精神疾患の病態解明研究. 日本生物学的精神医学会誌 33(2):87-89, 2022.

## B. 学会・研究会における発表

- (1) 学会特別講演, 教育講演, シンポジウム, ワークショップ, パネルディスカッション等
  - 1) 岡本泰昌, 橋本亮太, 清水栄司, 徳田智磯：縦断的 MRI データに基づく成人期気分障害と関連疾患の神経回路の解明. 第118回日本精神神経学会学術総会, 福岡, 2022.6.16.
  - 2) 橋本亮太：精神科医に対する講習によるガイドの普及とその理解の向上. 第118回日本精神神経学会学術総会, 福岡, 2022.6.16.
  - 3) EGUIDE プロジェクト（代表 橋本亮太）：精神医療奨励賞受賞講演, 第118回日本精神神経学会学術総会, 福岡, 2022.6.17.
  - 4) 橋本亮太：精神科治療ガイドラインの教育・普及・検証によって臨床現場の何が変わるのか？. (公社)大阪精神科診療所協会 R4 年度総会・学術研究集会, 大阪（オンライン）, 2022.6.25.
  - 5) 橋本亮太：ヒト・精神疾患脳関連データベースの例：COCORO とマイレジストリ. 脳関連データベース機関連携キックオフシンポジウム, オンライン, 2022.7.27.
  - 6) 橋本亮太, 松本純弥, 長谷川尚美, 三浦健一郎：生物学的分類を取り入れた精神疾患診断の将来像. 第41回日本精神科診断学会, オンライン, 2022.9.9.
  - 7) 橋本亮太, 松本純弥, 長谷川尚美, 三浦健一郎：精神疾患の診断法の開発はどのように行うのか？. 第44回日本生物学的精神医学会年会, 第32回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第52回日本神経精神薬理学会年会, 第6回日本精神薬学会総会・学術集会の4学会合同年会

- (BPCNP/PP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.5.
- 8) 橋本亮太: 統合失調症薬物治療ガイドライン 2022 の作成の経緯と概要. 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/PP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.4.
  - 9) 松本純弥, 三浦健一郎, 橋本亮太: 大脳皮質構造画像の大規模データによる精神疾患横断解析. 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/PP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.4.
  - 10) 橋本亮太: 精神科医療の世界を変えるための研究とは: 病態研究から社会実装研究まで. 第 41 回日本社会精神医学会, 神戸, 2023.3.17.
  - 11) 橋本亮太: 統合失調症薬物治療ガイドライン 2022 のポイントと普及. 第 41 回日本社会精神医学会, 神戸, 2023.3.17.
  - 12) 三浦健一郎: 臨床現場で使えるタブレットを用いた統合失調症の補助診断法の開発. 第 41 回日本精神科診断学会, オンライン, 2022.9.9.
- (2) 一般演題
- 1) Ohi K, Nishizawa D, Sugiyama S, Takai K, Kuramitsu A, Hasegawa J, Soda M, Kitaichi K, Hashimoto R, Ikeda K, Shioiri T. Polygenic risk scores differentiating schizophrenia from bipolar disorder are associated with premorbid intelligence in schizophrenia patients and healthy subjects. 2022 Congress of the Schizophrenia International Research Society, Online, 2022.4.6.
  - 2) Ohi K, Nishizawa D, Sugiyama S, Takai K, Fujikane D, Kuramitsu A, Hasegawa J, Soda M, Kitaichi K, Hashimoto R, Ikeda K, Shioiri T. Cognitive Performances across Individuals at High Genetic Risk for Schizophrenia, High Genetic Risk for Bipolar Disorder, and Low Genetic Risks: A Combined Polygenic Risk Score Approach. CINP (33rd Committee of the International College of Neuropsychopharmacology), Taipei, 2022.6.13.
  - 3) Ochi S, Tagata H, Hasegawa N, Yasui-Furukori N, Iga JI, Kashiwagi H, Kodaka F, Komatsu H, Tsuboi T, Tokutani A, Numata S, Ichihashi K, Onitsuka T, Muraoka H, Iida H, Ohi K, Atake K, Kishimoto T, Horii H, Takaesu Y, Takeshima M, Usami M, Makinodan M, Hashimoto N, Fujimoto M, Furihata R, Nagasawa T, Yamada H, Matsumoto J, Miura K, Kido M, Hishimoto A, Ueno S, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R: Clozapine treatment is associated with higher prescription rate of antipsychotic monotherapy and lower prescription rate of other concomitant psychotropics: A real-world nationwide study. CINP (33rd Committee of the International College of Neuropsychopharmacology), Taipei, 2022.6.12.
  - 4) Schijven D, Postema MC, ENIGMA-Schizophrenia Working Group, Fisher SE, Franke B, Glahn DC, Gur RC, Hashimoto R, Jahanshad N, Luders E, Medland SE, Thompson PM, Turner JA, van Erp TGM, Francks C: Large-scale analysis of brain structural asymmetries in schizophrenia via the ENIGMA consortium. 2022 OHBM Annual Meeting, Scotland, 2022.6.20.
  - 5) 田中將貴, 柳澤琢史, 福間良平, 谷直樹, 押野 悟, 三原雅史, 服部憲明, 梶山裕太, 橋本亮太, 池田 学, 望月秀樹, 貴島晴彦: 脳磁図を用いたパーキンソン病の位相振幅カップリングの評価. 第 45 回日本脳神経 CI 学会, オンライン, 2022.4.8.
  - 6) 中村敏範, 降旗隆二, 長谷川尚美, 大槻 怜, 古郡規雄, 坪井貴嗣, 越智紳一郎, 市橋香代, 山田 恒, 三浦健一郎, 松本純弥, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 鷺塚伸介, 橋本亮太: 統合失調症患者

- の入院治療における睡眠薬増減の関連要因：全国調査の分析. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 福岡, 2022.6.17.
- 7) 五十嵐 俊, 坪井貴嗣, 長谷川尚美, 古郡規雄, 越智紳一郎, 飯田仁志, 村岡寛之, 高江洲義和, 岡田剛史, 柏木宏子, 小高文聰, 福本健太郎, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 入院うつ病患者における ECT 後の炭酸リチウムの処方実態について. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 福岡, 2022.6.17.
  - 8) 大槻 怜, 降旗隆二, 長谷川尚美, 中村敏範, 古郡規雄, 小高文聰, 堀 輝, 坪井貴嗣, 沼田周助, 柏木宏子, 松本純弥, 三浦健一郎, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 鈴木正泰, 橋本亮太: 日本のうつ病入院治療における睡眠薬処方率の施設間の違いとその関連要因. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 福岡, 2022.6.17.
  - 9) 山形弘隆, 藤井優子, 關 友恵, 長谷川尚美, 橋本亮太, 中川 伸: EGUIDE プロジェクトによる統合失調症患者・うつ病患者に対する外来処方の変化. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 福岡, 2022.6.17.
  - 10) 山本哲也, 三浦健一郎, 松田圭司, 松本純弥, 橋本亮太, 小野誠司, 定藤規弘, 福永雅喜: ヒトの滑動性追跡眼球運動に関わる脳領域と高髄鞘化領域の対応. Neuro2022 第 45 回日本神経科学大会/第 65 回日本神経化学学会大会/第 32 回日本神経回路学会大会, 沖縄, 2022.6.30.
  - 11) 本山美久仁, 山田 恒, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 精神科レジデントに対するうつ病治療ガイドライン講習の効果の検討-ガイドラインに沿った臨床行動実践度の変化-. 第 19 回日本うつ病学会総会/第 5 回日本うつ病リワーク協会年次大会【合同開催】, 大分, 2022.7.14.
  - 12) 山田 恒, 本山美久仁, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: うつ病治療ガイドライン講習受講効果の検討-ガイドライン講習前と受講後 5 年間のガイドラインに沿った臨床行動実践度の変化-. 第 19 回日本うつ病学会総会/第 5 回日本うつ病リワーク協会年次大会【合同開催】, 大分, 2022.7.14.
  - 13) 岡田剛史, 福本健太郎, 坪井貴嗣, 長谷川尚美, 村岡寛之, 柏木宏子, 越智紳一郎, 五十嵐 俊, 飯田仁志, 小高文聰, 大井一高, 高江洲義和, 古郡規雄, 三浦健一郎, 松本純弥, 須田史朗, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: うつ病に対する維持 ECT 患者に併用する薬物療法の実態. 第 19 回日本うつ病学会総会/第 5 回日本うつ病リワーク協会年次大会【合同開催】, 大分, 2022.7.14.
  - 14) 村岡寛之, 長谷川尚美, 古郡規雄, 小高文聰, 福本健太郎, 柏木宏子, 大井一高, 松本純弥, 三浦健一郎, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 西村勝治, 橋本亮太: うつ病の治療に対する EGUIDE 講習の効果と重症度の付記の影響. 第 19 回日本うつ病学会総会/第 5 回日本うつ病リワーク協会年次大会【合同開催】, 大分, 2022.7.14.
  - 15) 橋本直樹, 古郡規雄, 沼田周助, 飯田仁志, 市橋香代, 稲田 健, 降旗隆二, 堀 輝, 小高文聰, 長谷川尚美, 橋本亮太: 入退院時処方の比較からみた, 抗うつ薬単剤治療の実態調査-EGUIDE プロジェクトデータより-. 第 19 回日本うつ病学会総会/第 5 回日本うつ病リワーク協会年次大会【合同開催】, 大分, 2022.7.14.
  - 16) Kitagawa K, Baba M, Takemoto T, Nagayasu K, Kasai A, Takuma K, Hashimoto R, Hashimoto H, Ago Y, Nakazawa T: Impaired neurodevelopment in iPS cell-derived neural stem cells from psychiatric patients with 7q36.3 microduplication. VPAC-ISBAP2022 (The 15th International Symposium on VIP, PACAP and Related Peptides The 1st International Society for BioactivePeptides Meeting), Osaka, 2022.10.30.
  - 17) 橋本直樹, 古郡規雄, 沼田周助, 飯田仁志, 市橋香代, 降旗隆二, 堀 輝, 小高文聰, 長谷川尚美, 松本純弥, 三浦健一郎, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: 入退院時処方の比較からみた抗精神病薬単剤治療の実態調査 -EGUIDE プロジェクトデータより-. 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会,

- 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/NPPP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.5.
- 18) 長谷川尚美, 安田由華, 古郡規雄, 市橋香代, 小高文聰, 堀 輝, 飯田仁志, 村岡寛之, 高江洲義和, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 統合失調症とうつ病の治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果: 4 年間の経年的変化に着目して. 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/NPPP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.5.
- 19) 伊藤颯姫, 三浦健一郎, 宮山未来乃, 松本純弥, 福永雅喜, 石丸径一郎, 藤本美智子, 安田由華, 渡邊嘉之, 橋本亮太: 統合失調症における淡蒼球の肥大化と陽性症状の重症度の関連. 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/NPPP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.5.
- 20) 山崎龍一, 松本純弥, 根本清貴, 福永雅喜, 橋本直樹, 小高文聰, 高野晴成, 伊藤颯姫, 長谷川尚美, 安田由華, 藤本美智子, 山森英長, 渡邊嘉之, 三浦健一郎, 橋本亮太: 統合失調症に特徴的な脳体積減少パターンの経時変化. 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/NPPP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.5.
- 21) 岡崎康輔, 三浦健一郎, 松本純弥, 長谷川尚美, 藤本美智子, 山森英長, 安田由華, 牧之段 学, 橋本亮太: 眼球運動と認知機能を組み合わせによる統合失調症の補助診断法の開発: 機械学習法による検討. 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/NPPP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.5.
- 22) 宮山未来乃, 三浦健一郎, 伊藤颯姫, 松本純弥, 福永雅喜, 石丸径一郎, 藤本美智子, 安田由華, 山森英長, 渡邊嘉之, 橋本亮太: 統合失調症における労働時間と脳構造の関連及び認知機能障害の媒介効果の検討. 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/NPPP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.4.
- 23) 酒井佳永, 伊藤颯姫, 松本純弥, 安田由華, 山森英長, 藤本美智子, 長谷川尚美, 石丸径一郎, 三浦健一郎, 橋本亮太: 統合失調症患者における病識の経時的変化のパターンと関連する臨床的要因. 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/NPPP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.4.
- 24) 越智紳一郎, 田形弘実, 長谷川尚美, 古郡規雄, 伊賀淳一, 柏木宏子, 小高文聰, 小松 浩, 坪井貴嗣, 徳谷 晃, 沼田周助, 岸本泰士郎, 堀 輝, 菱本明豊, 松本純弥, 三浦健一郎, 上野修一, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: クロザピン治療は抗精神病薬の高い単剤率および他の向精神薬の低い併用率に関連する. 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/NPPP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.4.
- 25) 高田智弘, 橋本 均, 橋本亮太, 中澤敬信: 2p16.3 領域欠失を有する精神疾患患者の iPS 細胞由来神経系細胞の機能解析. 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/NPPP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.4.
- 26) 松本純弥, 福永雅喜, 三浦健一郎, 根本清貴, 岡田直大, 橋本直樹, 森田健太郎, 越山太輔, 大井一高, 高橋 努, 肥田道彦, 山森英長, 藤本美智子, 安田由華, 長谷川尚美, 伊藤颯姫, 成田 尚, 横山仁史, 三嶋 亮, 河島孝彦, 小林祐子, 笹林大樹, 原田健一郎, 山本真江里, 平野

- 羊嗣, 板橋貴史, 中瀧理仁, 橋本龍一郎, タ キンキン, 小池進介, 松原敏郎, 岡田 剛, 吉村玲児, 阿部 修, 鬼塚俊明, 渡邊嘉之, 松尾幸治, 山末英典, 岡本泰昌, 鈴木道雄, 尾崎紀夫, 笠井清登, 橋本亮太: 統合失調症・双極性障害・うつ病・自閉スペクトラム症の多施設大規模データによる疾患横断的な大脳皮質構造の類似度の解析. 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/PP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.4.
- 27) 本山美久仁, 山田 恒, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 精神科レジデントに対する統合失調症薬物治療ガイドライン講習の効果の検討-ガイドラインに沿った臨床行動実践度の比較-. 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/PP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.4.
- 28) 山田 恒, 本山美久仁, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田 健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: ガイドライン講習受講前と受講後 5 年間の統合失調症薬物治療ガイドラインに沿った臨床行動実践度の変化-治療ガイドライン教育プロジェクト (EGUIDE プロジェクト) の効果検討. 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/PP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.4.
- 29) 住吉チカ, 伊藤颯姫, 松本純弥, 藤野陽生, 山森英長, 藤本美智子, 安田由華, 三浦健一郎, 住吉太幹, 橋本亮太: 精神症状・社会機能に基づく統合失調症患者の労働状態の推定・予測. 第 17 回日本統合失調症学会, オンライン, 2023.3.25.
- 30) 橋本直樹, 根本清貴, 福永雅喜, 松本純弥, 三浦健一郎, 岡田直大, 森田健太郎, 越山太輔, 大井一高, 高橋 努, 肥田道彦, 山森英長, 藤本美智子, 安田由華, 長谷川尚美, 伊藤颯姫, 成田 尚, 横山仁史, 三嶋 亮, 河島孝彦, 小林祐子, 笹林大樹, 原田健一郎, 山本真江里, 平野羊嗣, 板橋貴史, 中瀧理仁, 橋本龍一郎, タ キンキン, 小池進介, 松原敏郎, 岡田 剛, 吉村玲児, 阿部 修, 鬼塚俊明, 渡邊嘉之, 松尾幸治, 山末英典, 岡本泰昌, 鈴木道雄, 尾崎紀夫, 笠井清登, 橋本亮太: 脳構造画像を用いた統合失調症らしさのメガアナライシス. 第 17 回日本統合失調症学会, オンライン, 2023.3.26.
- 31) 鬼塚俊明, 岡田剛史, 長谷川尚美, 坪井貴嗣, 伊賀淳一, 古郡規雄, 山田直輝, 堀 輝, 村岡寛之, 大井一高, 小笠原一能, 越智紳一郎, 竹島正浩, 市橋香代, 福本健太郎, 飯田仁志, 山田恒, 降旗隆二, 牧之段 学, 高江洲義和, 沼田周助, 小松 浩, 菱本明豊, 木戸幹雄, 阿竹聖和, 山形弘隆, 菊地紗耶, 橋本直樹, 宇佐美政英, 勝元榮一, 浅見 剛, 久保田智香, 松本純弥, 三浦健一郎, 平野羊嗣, 渡邊衡一郎, 稲田 健, 橋本亮太: 持続性抗精神病注射薬剤 (LAI) と経口抗精神病薬の併用薬の状況: 日本における実態調査. 第 17 回日本統合失調症学会, オンライン, 2023.3.26.
- 32) 山崎龍一, 松本純弥, 伊藤颯姫, 根本清貴, 福永雅喜, 橋本直樹, 小高文聰, 高野晴成, 長谷川尚美, 安田由華, 藤本美智子, 山森英長, 渡邊嘉之, 三浦健一郎, 橋本亮太: 脳構造画像上の「統合失調症らしさ」の縦断変化. 第 17 回日本統合失調症学会, オンライン, 2023.3.26.
- 33) 伊藤颯姫, 三浦健一郎, 宮山未来乃, 松本純弥, 福永雅喜, 石丸徑一郎, 藤本美智子, 安田由華, 渡邊嘉之, 橋本亮太: 統合失調症における淡蒼球体積と精神症状の重症度の関連. 第 17 回日本統合失調症学会, オンライン, 2023.3.26.
- 34) 宮山未来乃, 三浦健一郎, 伊藤颯姫, 松本純弥, 福永雅喜, 石丸徑一郎, 藤本美智子, 安田由華, 山森英長, 渡邊嘉之, 橋本亮太: 媒介分析による統合失調症患者の労働時間, 認知機能障害及び脳構造の関連検討. 第 17 回日本統合失調症学会, オンライン, 2023.3.26.
- 35) 松本純弥, 山崎龍一, 根本清貴, 福永雅喜, 小高文聰, 高野晴成, 伊藤颯姫, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 橋本亮太: SARS-CoV-2 感染前後での脳 MRI 所見検討: 統合失調症症例報告. 第 17 回日本統合失調症学会, オンライン, 2023.3.26.

- 36) 福本健太郎, 稲田 健, 長谷川尚美, 安田由華, 堀 輝, 市橋香代, 飯田仁志, 大井一高, 村岡寛之, 小高文聰, 松本純弥, 三浦健一郎, 古郡規雄, 渡邊衡一郎, 橋本亮太: 統合失調症薬物治療ガイドに基づいた治療適合度 (individual fitness score) の開発. 第 17 回日本統合失調症学会, オンライン, 2023.3.26.
- 37) 竹本智哉, 竹本智哉, 馬場優志, 北川航平, 永安一樹, 勢力 薫, 早田敦子, 笠井淳司, 吾郷由希夫, 田熊一徹, 橋本亮太, 橋本 均, 中澤敬信: ヒト染色体 3q29 領域欠失を導入した自閉スペクトラム症モデルマウスの社会行動異常はオキシトシンの投与により回復する. 日本薬学会第 143 年会, 札幌, 2023.3.26.
- 38) 秋本祐弥, 馬場優志, 福島穂高, 三浦大樹, 橋本 均, 橋本亮太, 中澤敬信: 環境エンリッチメントによる 3q29 領域欠失導入マウスの精神疾患様行動の回復. 日本薬学会第 143 年会, 札幌, 2023.3.27.
- 39) 高田智弘, 河野翔太郎, 鮎澤有希子, 三浦大樹, 福島穂高, 橋本亮太, 橋本 均, 中澤敬信: 患者 iPS 細胞由来分化神経系細胞を用いた 2p16.3 領域欠失変異の分子病態解析. 日本薬学会第 143 年会, 札幌, 2023.3.27.
- 40) 河野翔太郎, 高田智弘, 鮎澤有希子, 三浦大樹, 福島穂高, 橋本亮太, 橋本 均, 中澤敬信: 患者 iPS 細胞由来分化神経系細胞を用いた 3q29 領域欠失変異の分子病態解析. 日本薬学会第 143 年会, 札幌, 2023.3.27.
- 41) 竹村 文, 三浦健一郎: サル大脳皮質 MTS 野の神経活動は仮現運動の刺激間隔による反転を説明する. Neuro2022 第 45 回日本神経科学大会/第 65 回日本神経化学学会大会/第 32 回日本神経回路学会大会, 沖縄, 2022.6.30.
- 42) 山本哲也, 福永雅喜, 三浦健一郎, 定藤規弘: 短時間安静時 fMRI データを用いた Multimodal Surface Matching の非 HCP 課題 fMRI 解析への適用. 第 50 回日本磁気共鳴医学会大会, 名古屋, 2022.9.11.
- 43) 塩谷佳介, 林 和子, 松本有央, 松田圭司, 三浦健一郎, 山根 茂, Eldridge M.A.G, Saunders R.C, Richmond B.J, 永井裕司, 宮川尚久, 南本敬史, 片上 舜, 岡田真人, 河野憲二, 菅生-宮本康子: サル側頭皮質における顔情報と顔質感情報の時間的表現. 東京理科大学パラレル脳センシング研究部門第 2 回公開シンポジウム「Think Synch Brain Dynamics ~理工が挑む脳科学~」, 東京, 2022.12.17.
- 44) 清水将海, 片上 舜, 岡田真人, 菅生-宮本康子, 林 和子, 松田圭司, 三浦健一郎, Eldridge M.A.G, Saunders R.C, Richmond B.J, 松本有央: カテゴリ分類における TE 野と TEO 野のニューロン特性比較. 東京理科大学パラレル脳センシング研究部門第 2 回公開シンポジウム「Think Synch Brain Dynamics ~理工が挑む脳科学~」, 東京, 2022.12.17.
- 45) 高麗雄介, 三浦健一郎: 運動視覚の動的方程式-残像効果を考慮した拡張-. 第 18 回空間認知と運動制御研究会, 京都, 2023.3.11.
- 46) 竹村 文, 三浦健一郎: ケタミンによるマカクザルの眼球運動特性への影響. 日本生理学会第 100 回記念大会, 京都, 2023.3.14.
- 47) Hayashi K, Matsumoto N, Matsuda K, Miura K, Yamane S, Eldridge M.A.G, Saunders R.C, Richmond B.J, Nagai Y, Miyakawa N, Minamimoto T, Okada M, Kawano K, Sugase-Miyamoto Y: Neural and behavioral correlates of discriminating facial expressions with different skin textures in macaque monkeys. The 100th Annivesary Annual Meeting of The Physiological Society of Japan, Kyoto, 2023.3.14.
- 48) Kawano K, Hayashi K, Matsumoto M, Matsuda K, Miura K, Eldridge M, Saunders R, Richmond B, Sugase-Miyamoto Y: Effects of saccadic eye movements on face-responsive neurons in the inferior temporal cortex of macaque monkeys. The 100th Annivesary Annual Meeting of The Physiological Society of Japan, Kyoto, 2023.3.14.
- 49) 塩谷佳介, 林 和子, 松本有央, 松田圭司, 三浦健一郎, 山根 茂, Eldridge M.A.G, Saunders



R.C, Richmond B.J, 永井裕司, 宮川尚久, 南本敬史, 片上 舜, 岡田真人, 河野憲二, 菅生-宮本康子: マカクザル側頭葉 TE 野ニューロンの顔表面特性の表現. 日本物理学会 2023 年春季大会, オンライン, 2023.3.25.

- 50) 松本純弥: 4 大精神疾患における大脳皮質構造画像の疾患横断解析. 国際学会発表奨励賞受賞者セッション, 第 17 回日本統合失調症学会, オンライン, 2023.3.25.
- 51) 長谷川尚美: 統合失調症とうつ病の治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果: 2016~2019 年の処方調査結果より. 国際学会発表奨励賞受賞者セッション, 第 17 回日本統合失調症学会, オンライン, 2023.3.25.

### (3) 研究報告会

- 1) 橋本亮太: JART10000 プロジェクト. 第 18 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2022.6.5.
- 2) 橋本亮太: COCORO の概要. 第 18 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2022.6.5.
- 3) 三浦健一郎: 精神疾患横断的サリエンシー解析 (眼球運動). オンライン, 2022.6.5.
- 4) 松本純弥: ENIGMA\_CDJ\_Cortical, 第 18 回 COCORO 合同会議. オンライン, 2022.6.5.
- 5) 伊藤颯姫: 統合失調症における淡蒼球と陽性症状の関連解析. 第 18 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2022.6.5.
- 6) 宮山未来乃: 統合失調症における労働時間と脳構造の関連解析. 第 18 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2022.6.5.
- 7) 橋本亮太: 精神疾患の巨大データベースの利活用データに基づく臨床知による基礎臨床連携研究とは. 令和 4 年度 AMED 脳とこころの研究推進プログラム 精神・神経疾患メカニズム解明プロジェクト分科会, オンライン, 2022.8.19.
- 8) 橋本亮太: COCORO の概要. 第 19 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2022.12.4.
- 9) 三浦健一郎: 精神疾患横断的サリエンシー解析 (眼球運動). 第 19 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2022.12.4.
- 10) 松本純弥: ENIGMA\_CDJ\_Cortical. 第 19 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2022.12.4.
- 11) 松本純弥: JART10000 プロジェクト. 第 19 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2022.12.4.
- 12) 長谷川尚美, 安田由華, 古郡規雄, 市橋香代, 小高文聰, 堀 輝, 飯田仁志, 村岡寛之, 高江洲義和, 三浦健一郎, 松本純弥, 稲田 健, 渡邊衛一郎, 橋本亮太: 統合失調症とうつ病の治療に対する EGUIDE プロジェクトの効果. 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所令和 4 年度研究報告会, オンライン, 2023.3.20.
- 13) 松本純弥, 福永雅喜, 三浦健一郎, 根本清貴, 岡田直大, 橋本直樹, 森田健太郎, 越山太輔, 大井一高, 高橋 努, 肥田道彦, 山森英長, 藤本美智子, 安田由華, 伊藤颯姫, 山崎龍一, 長谷川尚美, 成田 尚, 横山仁史, 三嶋 亮, 宮田 淳, 小林祐子, 笹林大樹, 原田健一郎, 山本真江里, 平野羊嗣, 板橋貴史, 中瀧理仁, 橋本龍一郎, タ キンキン, 小池進介, 松原敏郎, 岡田 剛, 吉村玲児, 阿部 修, 鬼塚俊明, 渡邊嘉之, 松尾幸治, 山末英典, 岡本泰昌, 鈴木道雄, 尾崎紀夫, 笠井清登, 橋本亮太: 4 大精神疾患の大脳構造の類似度の解析: 大脳皮質厚と大脳皮質表面積の多施設共同疾患横断解析. 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所令和 4 年度研究報告会, オンライン, 2023.3.20.

### (4) その他

- 1) 橋本亮太: 試料・情報の臨床的意義を共有して行う産学連携共同研究とは. 文部科学省 研究振興局ライフサイエンス課主催 ライフサイエンス科学製薬協との意見交換会, 2022.11.7.

### C. 講演

- 1) 橋本亮太: リアルワールドの精神医療の問題を解決するための研究とは?. 第 49 回 NCNP 精神保健研究所ランチョンセミナー, 東京, 2022.4.25.

- 2) 橋本亮太：統合失調症の認知機能障害の評価と治療に関する将来展望。住友ファーマ(株)メディカルアフェアーズ部社内研修会，オンライン，2022.9.20，
- 3) 橋本亮太：精神疾患の克服とその障害支援のために臨床現場の精神科医が行う研究とは。徳島大学精神科医局セミナー，徳島，2022.11.16.
- 4) 橋本亮太：精神疾患の克服とその障害支援のための研究とは。慶應義塾大学医学部精神科セミナー，オンライン，2022.11.30.
- 5) 橋本亮太：抗精神病薬の適正使用 ～統合失調症薬物治療ガイドライン 2022 をふまえて～. Tardive Dyskinesia WEB seminar, オンライン, 2022.12.14.

#### D. 学会活動

##### (1) 学会主催

##### (2) 学会役員

- 1) 橋本亮太：日本神経精神薬理学会 理事，評議員，広報委員会委員，統合失調症薬物治療ガイドラインタスクフォース，国際学術委員会委員，執行委員会委員，クロザピン TF 委員会委員長，トランスレーショナル・メディカルサイエンス (TMS) 委員会イノベーションサイエンス部会委員，精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証委員会委員長（通称：EGUIDE 委員会），統合失調症診療ガイドライン委員長，診療ガイドライン委員会委員長，薬事委員会委員，統合失調症薬物治療ガイド 2022 作成ワーキンググループ
- 2) 橋本亮太：日本精神神経学会 PCN 編集委員会委員，薬事委員会委員，精神医学研究推進委員会委員，PCN Reports 編集委員会，ガイドライン検討委員会委員，提言作成ワーキンググループ，着床前診断に関するワーキンググループ 2022 年度委員
- 3) 橋本亮太：日本神経化学会 評議員，脳研究推進委員会委員，連合大会・多分野交流委員会委員
- 4) 橋本亮太：日本統合失調症学会 評議員
- 5) 橋本亮太：日本臨床精神神経薬理学会 評議員，精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証委員会委員長（通称：EGUIDE 委員会）
- 6) 橋本亮太：日本うつ病学会 評議員，気分障害の治療ガイドライン検討委員会委員，精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証委員会委員長（通称：EGUIDE 委員会）
- 7) 橋本亮太：日本生物学的精神医学会 理事，将来計画委員会委員（顧問），広報委員会委員，関連学会対応委員会副委員長，評議員
- 8) 橋本亮太：日本神経科学学会 臨床・関連学会連携委員会委員
- 9) 橋本亮太：国際神経精神薬理学会 理事，フェローシップ表彰委員会委員，教育委員会委員，評議員

##### (3) 座長

- 1) 橋本亮太：統合失調症薬物治療ガイドライン 2022 の概説。第 118 回日本精神神経学会学術総会，福岡，2022.6.18.
- 2) 橋本亮太：精神科で本当に必要な薬は何か？-精神科における合意形成を目指して-。第 118 回日本精神神経学会学術総会，福岡，2022.6.18.
- 3) 橋本亮太：精神科診断に一石を投じる生物学的精神医学の現状と課題。第 41 回日本精神科診断学会，オンライン，2022.9.9.
- 4) 橋本亮太：双極性障害における診断，治療の普及と啓発。第 35 回日本総合病院精神医学会総会ランチョンセミナー，東京，2022.10.29.
- 5) 橋本亮太：最先端の精神医学研究は精神疾患の診断法の開発にどこまで迫れるか？。第 44 回日本生物学的精神医学会年会，第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会，第 52 回日本神経精神薬理学会年会，第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会（BPCNP/PP4 学会

合同年会), 東京, 2022.11.5.

- 6) 橋本亮太: 精神科ガイドラインを臨床にいかにかすか~各疾患ガイドラインのポイントと活用. 第 41 回日本社会精神医学会, 神戸, 2023.3.17.
- 7) 橋本亮太: 診療ガイドラインからみた薬物治療最前線. 第 17 回日本統合失調症学会, オンライン, 2023.3.25.

#### (4) 学会誌編集委員等

- 1) 橋本亮太: 日本精神神経学会機関誌「Psychiatry and Clinical Neuroscience」編集委員会委員
- 2) 橋本亮太: 日本精神神経学会機関誌「Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports」編集委員会委員
- 3) 橋本亮太: 日本神経精神薬理学会機関誌「Neuropsychopharmacology Reports」「日本神経精神薬理学雑誌」編集委員会委員

### E. 研修

#### (1) 研修企画

- 1) 橋本亮太: 第 118 回日本精神神経学会学術総会ワークショップ, WS:診療技術向上ワークショップ~統合失調症患者への治療介入を学ぶ~. 福岡, 2022.6.16.
- 2) 橋本亮太: 大阪精神科診療所協会, うつ病治療ガイドライン講習会. オンライン, 2022.7.9.
- 3) 橋本亮太: 琵琶湖病院, EGUIDE クリニカルプラクティス講習会. 大津, 2022.8.6.
- 4) 橋本亮太: 2022 年度国立精神・神経医療研究センター精神保健に関する技術研修, 第 1 回統合失調症の標準治療研修. オンライン, 2022.8.28.
- 5) 橋本亮太: 2022 年度国立精神・神経医療研究センター精神保健に関する技術研修, 第 1 回うつ病の標準治療研修. オンライン, 2022.9.4.
- 6) 橋本亮太: 大阪精神科診療所協会, 統合失調症薬物治療ガイドライン 2022 講習会. オンライン, 2022.9.10.
- 7) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト関東 NCNP 講習, 統合失調症のガイドライン講習. 東京, 2022.10.2.
- 8) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト関東 NCNP 講習, うつ病のガイドライン講習. 東京, 2022.10.16.
- 9) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト北海道/北陸/中部/中国講習, 統合失調症のガイドライン講習. オンライン, 2022.10.29.
- 10) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト北海道/北陸/中部/中国講習, うつ病のガイドライン講習. オンライン, 2022.10.30.
- 11) 橋本亮太: 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/NPPP4 学会合同年会) ワークショップ, 薬剤師のための EGUIDE プロジェクトワークショップ. 東京, 2022.11.5.
- 12) 橋本亮太: 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/NPPP4 学会合同年会) ワークショップ, 統合失調症薬物治療ガイドライン講習会 (EGUIDE プロジェクト). 東京, 2022.11.6.
- 13) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト近畿/九州/東北講習 1, 統合失調症のガイドライン講習. オンライン, 2022.11.19.
- 14) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト近畿/九州/東北講習 1, うつ病のガイドライン講習. オンライン, 2022.11.20.
- 15) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト近畿/九州/東北講習 2, 統合失調症のガイドライン講習. オ

ンライン, 2022.11.19.

- 16) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト近畿/九州/東北講習 2, うつ病のガイドライン講習. オンライン, 2022.11.20.
- 17) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト関東/四国講習, 統合失調症のガイドライン講習. オンライン, 2022.11.26.
- 18) 橋本亮太: EGUIDE プロジェクト関東/四国講習, うつ病のガイドライン講習. オンライン, 2022.11.27.
- 19) 橋本亮太: 第 17 回日本統合失調症学会サテライト企画, 当事者・家族むけワークショップ「上手な診察の受け方のコツ (うけコツ)」～統合失調症薬物治療ガイド 2022 より. オンライン, 2023.3.25.
- 20) 橋本亮太: 第 17 回日本統合失調症学会サテライト企画, 統合失調症の認知社会機能障害の測定一短時間で実施する簡易な認知社会機能測定の実際一. オンライン, 2023.3.26.

(2) 研修会講師

- 1) 橋本亮太: WS:引用される精神医学論文の書き方～Editor の経験紹介と個別相談. 第 118 回日本精神神経学会学術総会ワークショップ, 福岡, 2022.6.17.
- 2) 橋本亮太: 軽症. 大阪精神科診療所協会, うつ病治療ガイドライン講習会, オンライン, 2022.7.9.
- 3) 橋本亮太: 精神病性. 大阪精神科診療所協会, うつ病治療ガイドライン講習会, オンライン, 2022.7.9.
- 4) 橋本亮太: ワークショップの目的, 概説. 琵琶湖病院, EGUIDE クリニカルプラクティス講習会, 大津, 2022.8.6.
- 5) 橋本亮太: 治療抵抗性統合失調症. 2022 年度国立精神・神経医療研究センター精神保健に関する技術研修 第 1 回統合失調症の標準治療研修, オンライン, 2022.8.28.
- 6) 橋本亮太: 統合失調症の標準治療研修とは. 2022 年度国立精神・神経医療研究センター精神保健に関する技術研修 第 1 回統合失調症の標準治療研修, オンライン, 2022.8.28.
- 7) 橋本亮太: 児童思春期. 2022 年度国立精神・神経医療研究センター精神保健に関する技術研修 第 1 回うつ病の標準治療研修, オンライン, 2022.9.4.
- 8) 橋本亮太: うつ病の標準治療研修とは. 2022 年度国立精神・神経医療研究センター精神保健に関する技術研修 第 1 回うつ病の標準治療研修, オンライン, 2022.9.4.
- 9) 橋本亮太: 治療抵抗性. 大阪精神科診療所協会, 統合失調症薬物治療ガイドライン 2022 講習会, ウェブオンライン開催, オンライン, 2022.9.10.
- 10) 橋本亮太: 趣旨説明及び理解度記入. 統合失調症のガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東 NCNP 講習, 東京, 2022.10.2.
- 11) 橋本亮太: 趣旨説明及び理解度記入. うつ病のガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東 NCNP 講習, 東京, 2022.10.16.
- 12) 橋本亮太: 治療抵抗性統合失調症. 統合失調症薬物治療ガイドライン講習会 (EGUIDE プロジェクト), 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/PP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.6.
- 13) 橋本亮太: 認知社会機能障害検査の意義と概要. 第 17 回日本統合失調症学会 サテライト企画: WS 統合失調症の認知社会機能障害の測定一短時間で実施する簡易な認知社会機能測定の実際一, オンライン, 2023.3.26.
- 14) 橋本亮太: 認知社会機能障害検査の今後と質疑応答. 第 17 回日本統合失調症学会 サテライト企画: WS 統合失調症の認知社会機能障害の測定一短時間で実施する簡易な認知社会機能測定の実際一, オンライン, 2023.3.26.
- 15) 松本純弥: 認知機能障害の解説と活用例. 第 17 回日本統合失調症学会 サテライト企画: WS

- 統合失調症の認知社会機能障害の測定一短時間で実施する簡易な認知社会機能測定の実際一、オンライン、2023.3.26.
- 16) 伊藤颯姫：社会活動評価と病前推定 IQ の測定. 第 17 回日本統合失調症学会 サテライト企画：WS 統合失調症の認知社会機能障害の測定一短時間で実施する簡易な認知社会機能測定の実際一、オンライン、2023.3.26.
- 17) 小池春菜：現在の推定 IQ の測定（類似）. 第 17 回日本統合失調症学会 サテライト企画：WS 統合失調症の認知社会機能障害の測定一短時間で実施する簡易な認知社会機能測定の実際一、オンライン、2023.3.26.
- 18) 新谷茉莉果：現在の推定 IQ の測定（記号探し）. 第 17 回日本統合失調症学会 サテライト企画：WS 統合失調症の認知社会機能障害の測定一短時間で実施する簡易な認知社会機能測定の実際一、オンライン、2023.3.26.

## F. その他

### 【受賞】

- 1) 山形弘隆, 藤井優子, 關 友恵, 長谷川尚美, 橋本亮太, 中川 伸：第 118 回日本精神神経学会 学術総会優秀発表賞, EGUIDE プロジェクトによる統合失調症患者・うつ病患者に対する外来処方の変化, 2022.6.17.
- 2) 越智紳一郎, 橋本亮太ほか：JSNP Excellent Presentation Award for CINP, 日本神経精神薬理学会 2022 年最優秀演題賞（鍋島賞）, 2022.6. 受賞論文：Ochi S, Tagata H, Hasegawa N, Yasui-Furukori N, Iga JI, Kashiwagi H, Kodaka F, Komatsu H, Tsuboi T, Tokutani A, Numata S, Ichihashi K, Onitsuka T, Muraoka H, Iida H, Ohi K, Atake K, Kishimoto T, Hori H, Takaesu Y, Takeshima M, Usami M, Makinodan M, Hashimoto N, Fujimoto M, Furihata R, Nagasawa T, Yamada H, Matsumoto J, Miura K, Kido M, Hishimoto A, Ueno SI, Watanabe K, Inada K, Hashimoto R: Clozapine Treatment Is Associated With Higher Prescription Rate of Antipsychotic Monotherapy and Lower Prescription Rate of Other Concomitant Psychotropics: A Real-World Nationwide Study. Int J Neuropsychopharmacol, 25(10):818-826, 2022.
- 3) 松本純弥：第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会（BPCNP/PP4 学会合同年会）優秀演題発表賞, 統合失調症・双極性障害・うつ病・自閉スペクトラム症の多施設大規模データによる疾患横断的な大脳皮質構造の類似度の解析, 2022.11.

### 【その他】

- 1) 橋本亮太：プレスリリース. 統合失調症薬物治療ガイドライン 2022 年版公開（日本神経精神薬理学会）, 2022.5.11.
- 2) 橋本亮太：研究会主宰. 第 18 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2022.6.5.
- 3) 橋本亮太：総会司会. 2022 年度国立精神・神経医療研究センター精神保健に関する技術研修 第 1 回統合失調症の標準治療研修, オンライン, 2022.8.28.
- 4) 橋本亮太：総会司会. 2022 年度国立精神・神経医療研究センター精神保健に関する技術研修 第 1 回うつ病の標準治療研修, オンライン, 2022.9.4.
- 5) 橋本亮太：総会司会. 統合失調症のガイドライン講習. EGUIDE プロジェクト関東 NCNP 講習, 東京, 2022.10.2.
- 6) 橋本亮太：総会司会. うつ病のガイドライン講習, EGUIDE プロジェクト関東 NCNP 講習, 東京, 2022.10.16.
- 7) 橋本亮太：総会司会. 統合失調症薬物治療ガイドライン講習会（EGUIDE プロジェクト）, 第 44 回日本生物学的精神医学会年会, 第 32 回日本臨床精神神経薬理学会年会, 第 52 回日本神

経精神薬理学会年会, 第 6 回日本精神薬学会総会・学術集会の 4 学会合同年会 (BPCNP/NPPP4 学会合同年会), 東京, 2022.11.6.

- 8) 橋本亮太: 研究会主宰. 第 19 回 COCORO 合同会議, オンライン, 2022.12.4.
- 9) 橋本亮太: ファシリテーター. 第 17 回日本統合失調症学会サテライト企画, 当事者・家族むけワークショップ「上手な診察の受け方のコツ (うけコツ)」～統合失調症薬物治療ガイド 2022 より. オンライン, 2023.3.25.